

## Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018 開催結果について

### 1 開催結果

#### (1) 来場者数

	2018年		(参考: 前回) 2015年	
	プログラム数	来場者数	プログラム数	来場者数
主催	72	125,709人	24	183,252人
共催	72	891,493人	64	880,073人
		183,019人		194,393人
		708,474人		685,680人
合計	144	1,017,202人	88	1,063,325人

区民まつり除く  
区民まつりのみ

※パートナー事業を含めた全260プログラムの総来場者数は529万人（前回実績371万人）

#### (2) 市民認知率

40.7%（前回実績41.3%）

#### (3) 経済波及効果（主催・共催事業のみ）

50億8,500万円（前回実績53億5,700万円）

#### (4) パブリシティ効果（平成30年12月末まで）

33億7,000万円（前回実績14億340万円）

※メディア露出件数（）は前回実績

総計	テレビ・CATV	ラジオ	新聞・雑誌	WEB
4,006 (1,947)	445 (34)	138 (12)	330 (297)	3,093 (1,604)



【トリプルビル】

photo: 菅原康太



【横浜ダンスパラダイス】

(5) 来場者アンケートの主な結果

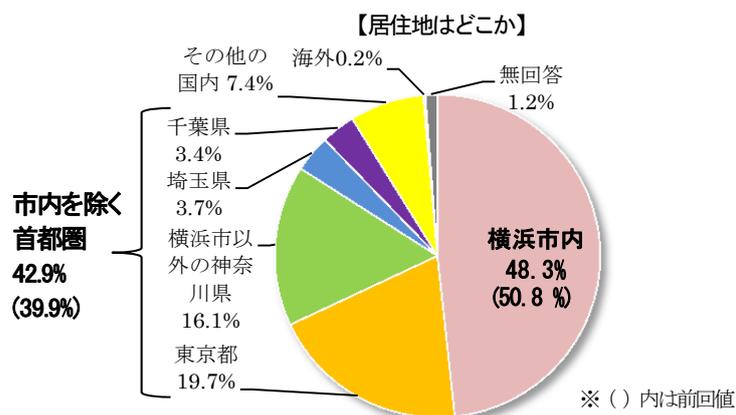
ア 対象

主催・共催プログラムの来場者 4,285 件

イ 結果概要

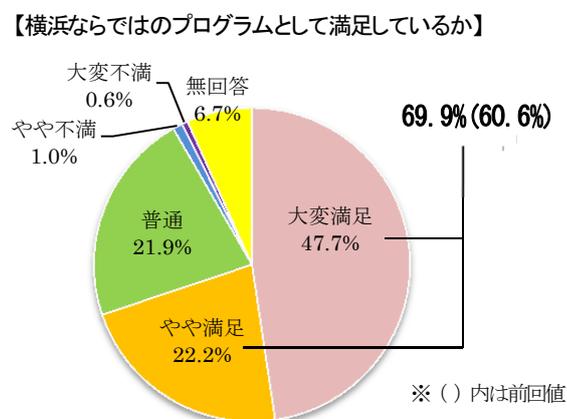
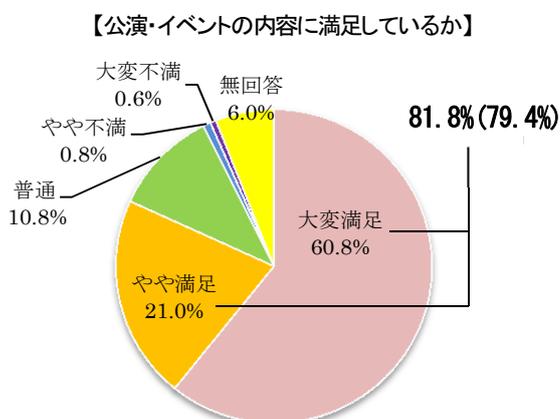
(ア) 居住地

来場者は市内在住が約5割、市内を除く首都圏が4割を占めるなど、近隣自治体からの集客効果があった。



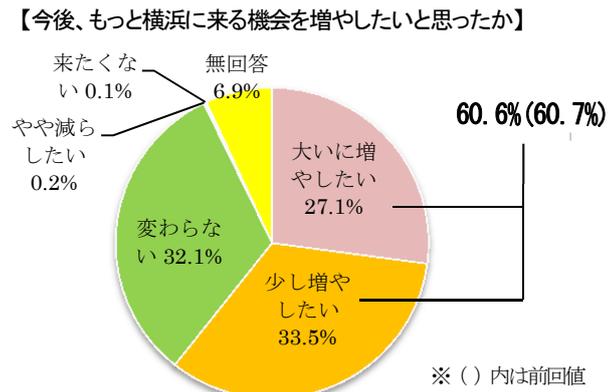
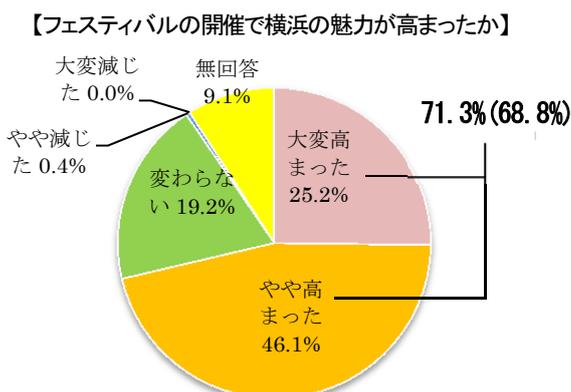
(イ) 満足度・横浜ならではの独自性

来場者の公演・イベントの内容についての満足度は約8割、また、約7割が来場したプログラムを「横浜ならではのプログラムとして満足した」と回答した。



(ウ) 横浜の魅力・来訪意向

「横浜の魅力が高まった」と感じた来場者は約7割、「今後、もっと横浜に来る機会を増やしたい」と感じた来場者は約6割だった。



## (6) 主催者アンケートの主な結果

### ア 対象

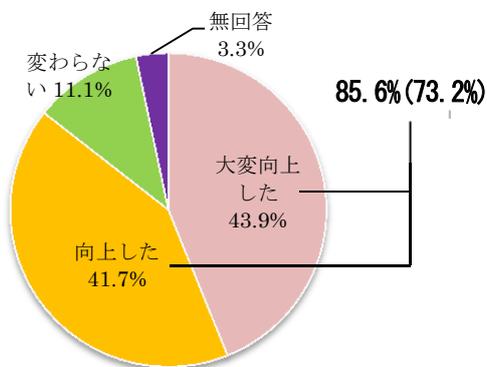
共催プログラム・パートナー事業の主催者 180 件

### イ 結果概要

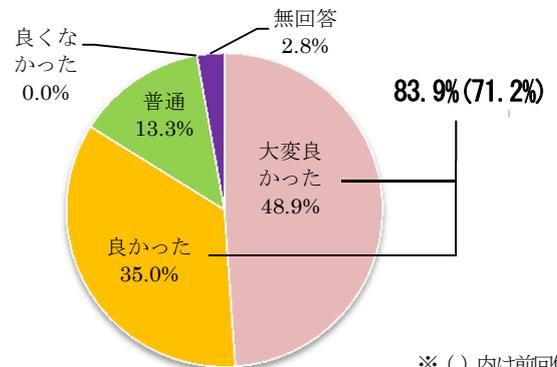
85%を超える主催者が「フェスティバルの開催により街の魅力や賑わいの向上につながった」と感じ、「フェスティバルへ参加・連携してよかった」と感じた主催者は8割を超えた。

また、「今後もフェスティバルが開催されることを期待する」と、約9割の主催者が回答した。

【フェスティバルの開催で、街の魅力や賑わいが向上したか】

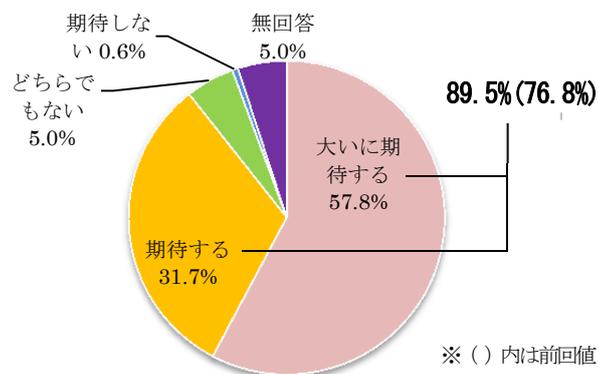


【参加・連携してよかったか】



※ ( ) 内は前回値

【今後もダンスや音楽のフェスティバルの開催を期待するか】



※ ( ) 内は前回値

※グラフ中の数値は少数点第2以下四捨五入表記により、合計が必ずしも100%ではありません。

## (7) 参加者の声

### ア 横浜ダンスパラダイス（市民参加プログラム）

- (ア) お客さんとの距離も近く、一体になれて楽しく踊ることができた。
- (イ) 地元のイベントに参加できてうれしかった。
- (ウ) 他のダンサーと知り合えてよかった。
- (エ) たくさんの方に見ていただけたので楽しかった。



【横浜ダンスパラダイス】

photo : oono ryusuke

### イ 18区ダンスワークショップ（次世代育成プログラム）

- (ア) 一度はダンスをしてみたかったので、とてもよかった。また参加したい。
- (イ) ジャンプしたり、踊ったりしてとても面白かった。
- (ウ) ゆっくり、丁寧に教えて下さったので、とても分かりやすかったです。
- (エ) 今日は色々な知らないお友だちと踊って楽しかったです。



【18区ダンスワークショップ】

photo : 金子愛帆

### ウ ダンス部応援プロジェクト！（次世代育成プログラム）

- (ア) 憧れのダンサーさんに直接ダンスを教わられて、夢のような時間でとても幸せでした。
- (イ) 技術面だけでなく精神面でもいろいろなことを学びました。
- (ウ) わかりやすいレッスンでとても楽しかった。
- (エ) 普段自分たちで活動していて教えてもらう機会が少ないので、すごく良い経験になったし、楽しかったです。



【ダンス部応援プロジェクト！】

photo : oono ryusuke

## (8) 専門家の声

- ・ 2か月間という長い期間にわたり、あらゆるジャンルのダンスを扱うフェスティバルでありながら、散漫な印象にならず、非常に充実していた。リヨン・ダンス・ビエンナーレとの連携も、フェスティバルに新たな歴史を開き、ダンス都市・横浜を国際的にアピールする優れた選択だった。  
(舞踊評論家 岡見 さえ 氏)
- ・ 初来日カンパニーや日本のアーティストに新作を作らせるなど、「新しい価値の創造への挑戦」に満ちていて、運営側の気概を感じた。たんに「盛り上がれば成功」、というような商業イベントとは一線を画す、「横浜市が文化に取り組む姿勢」をしっかりと見せてもらった。  
(舞踊評論家 乗越 たかお 氏)
- ・ トップアーティストプログラムだけでなく、市民参加や次世代育成のためのプログラムを、ともに開催したことを評価したい。ダンスを学ぶことは稽古事というだけでなく、ダンス層を拡大し、新しい観客の開拓にもつながる。ダンスの世代間の連携をより強くしていくことは、日本のダンス業界の将来にとって必要とされている。  
(ダンス研究者 中島 那奈子 氏)

## 【参考】開催概要

事業名	Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018
開催期間	平成30年8月4日(土)～9月30日(日)(コア期間58日間) (プレ期間5月1日(火)～8月3日(金)、ポスト期間10月1日(月)～11月30日(金))
ジャンル	コンテンポラリー、ストリート、ソーシャル、チア、日本舞踊、バレエ、フラ・ポリネシアン、盆踊りなどオールジャンル
プログラム数	260プログラム(うち主催72、共催72、パートナー事業116)
ディレクター	ドミニク・エルヴュ、近藤良平
主催	横浜アーツフェスティバル実行委員会
共催	横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
後援	観光庁、神奈川県、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、横浜商工会議所、一般社団法人横浜青年会議所、神奈川新聞社、NHK横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、アール・エフ・ラジオ日本、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会
助成	平成30年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業、一般財団法人地域創造、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021Arts Fund)、アンスティチュ・フランセパリ本部、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、ブリティッシュ・カウンシル
協賛	すてきナイスグループ株式会社、日産自動車株式会社、三井不動産グループ、三菱地所グループ コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、株式会社 JVC ケンウッド、スターツグループ、株式会社そごう・西武 そごう横浜店、株式会社高島屋 横浜店、横浜銀行 上野トランステック株式会社、株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、クイーンズスクエア横浜、株式会社サカタのタネ、株式会社スタージュエリー、チャコット株式会社、凸版印刷株式会社、NEC、原鉄道模型博物館、NTT 東日本、富士ゼロックス株式会社
協力	エバラ食品工業株式会社、キリンビール株式会社、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、東京急行電鉄株式会社、横浜信用金庫
認証	beyond2020